イチジクの生産安定技術の確立
第2報 水田転換園と畑地園における幼木時の収穫期および収量の比較
正田耕二・金房和己・畠中 洋（福岡県農業総合試験場豊前分場）

Shoda,K.,K.Kanafusa and H. Hatanaka: Establishment of Techniques for Stabilization of Fig Fruit Production. 2. on the Maturation Period and the Yield during the Young Tree Stage in the Converted Paddy Field (Temporarily Drained).

前報では、水田転換園イチジクの生育について、蓬莱柿は停滞期に、樹井ドーフィンは乾燥に弱く、また文字直枝は畑地園において新梢（結果枝）が徒長しやすいことを報告した。今回は水田転換園と畑地園における収穫期および収量について、幼木を1981年から1983年の3カ年間比較検討したので報告する。

1. 設計方法
水田転換園8aと畑地園16aに蓬莱柿および樹井ドーフィンをかまばこ形（高さ30cm）に植え立て、1980年1月に植付けた。蓬莱柿は開心形（40本／10a）で結果母枝を間引く定定し、樹井ドーフィンは開心形（49本／10a）で結果母枝を間引けせず定定と一文字直枝（125本／10a）を採用した。給水は週1回3本とし、収穫初めから終了までの3カ月間間数と重量を調査した。なお、両圃とも栽培管理は同一にした。

2. 結果および考察
1）1981年 結実初め期（植付け後2年）であることと9月の低温により収穫期が遅れ、9月下旬から10月に収穫量が多かった。樹井ドーフィンおよび蓬莱柿とも水田転換園のはが10月程度成熟期が早かったが、収穫は畑地園の約3/4であった。

表1 水田転換園と畑地園の10a当たり収穫量の推移（kg）

<table>
<thead>
<tr>
<th>区分</th>
<th>1981</th>
<th>1982</th>
<th>1983</th>
<th>3年平均</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>水田</td>
<td>96</td>
<td>830</td>
<td>2,340</td>
<td>3,166</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(植付け後2年)</td>
<td>(3年)</td>
<td>(4年)</td>
<td>計収量</td>
</tr>
<tr>
<td>畑地</td>
<td>308</td>
<td>1,200</td>
<td>2,428</td>
<td>3,936</td>
</tr>
<tr>
<td>水田</td>
<td>147</td>
<td>1,800</td>
<td>2,788</td>
<td>4,735</td>
</tr>
<tr>
<td>畑地</td>
<td>735</td>
<td>1,880</td>
<td>2,675</td>
<td>5,290</td>
</tr>
<tr>
<td>水田</td>
<td>213</td>
<td>2,900</td>
<td>4,725</td>
<td>7,838</td>
</tr>
<tr>
<td>畑地</td>
<td>738</td>
<td>2,600</td>
<td>4,050</td>
<td>7,388</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2）1982年 9月が低温で長雨の異常気象であった。蓬莱柿は、9月下旬までに水田転換園が畑地園よりも収穫量が多くて熟期が早まったが、収穫量は畑地園の1200kgに対して430kgしかなかった。樹井ドーフィンの開心形は両園とも収穫はもとは同様であったが、畑地園は結果枝の徒長で熟期が遅れ、水田転換園より9月に収穫量が少なかった。収穫は両園とも1800kgで差はなかった。一文字直枝は両園とも9月に収穫が少なく、10月以降に77%であった。

収穫量は水田転換園が2900kgで畑地園より300kg多かった。

3）1983年 本年は7月下旬から10月中旬まで気温が高く収穫時期が早まった。蓬莱柿は9月下旬までに水田転換園の収穫量が7割、畑地園では4割収穫した。収穫は畑地園2400kgで、水田転換園より200kg多かった。樹井ドーフィンの開心形は、両園とも9月下旬までに6割収穫し、9月下旬にはほとんど収穫を終了した。収穫は水田転換園が2800kgで畑地園より100kg多かった。一文字直枝は8月下旬までは収穫率で開花期と差がなかったが、9月上、中旬はやや少なく、9月下旬で水田転換園が8割、畑地園は7割収穫した。収穫量は水田転換園が4700kgで、畑地園より700kg多かった。


第1図 水田転換園および畑地園の枝条収穫量の推移（1983年）

第1報および第2報の結果から、水田転換園に栽培したイチジクの幼木は、畑地園に比較して長雨や乾燥の影響を受けやすい。新梢伸長が抑制されたが、9月下旬までの収穫量が多かった。樹井ドーフィンは長雨による多湿条件下で結果枝の充実が少なく、植付け後3～4年から畑地園より収穫量が多くなった。しかし、蓬莱柿は湿害によって新梢伸長が強く影響されるので、水田転換園より畑地園のはうがいずれの年も収穫量が多かった。

したがって、水田転換園では乾んだ土壌を完備して排水を徹底するとともに、乾燥期には早めに水を開始することがイチジクの生産安定に大切であると考えられる。